

# 県医師会の動き

副会長 吉本 正博

気象庁は 5 月 28 日（月）、山口県が梅雨入りしたとみられると発表しました。平年より 8 日早いとのこと。これを執筆している時点では紫陽花が満開ですが、やはりいつもより早い開花、満開のように思われます。

6 月 14 日（木）開催の**第 182 回山口県医師会定例代議員会**で新役員を選任・選定が議決され、2 期目の河村康明 執行部がスタートしました。

5 月 10 日（木）に**郡市医師会成人・高齢者保健担当理事協議会**が開催され、平成 30 年度から 35 年度までの 6 年間で策定されている「第 3 期がん対策推進計画」、胃内視鏡検診研修会、緩和ケア医師研修会、休日及び平日夜間がん検診体制整備支援事業、肝炎対策、糖尿病対策について県健康福祉部から説明が行われました。緩和ケア医師研修会は県医師会が県からの委託を受け実施しており、がん拠点病院開催の研修会も合わせると、これまでに 1,209 名が受講しています。今年度からは、緩和ケア研修会の新指針が示されたことを踏まえ、県医師会ではこの指針にしたがって、受講者が個別に受講する e-learning と 1 日の集合研修（5.5 時間以上）で実施する予定にしています。

5 月 16 日（水）に日医会館で開催された**都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会**に加藤智栄 常任理事が出席しています。医師の働き方改革に対する国と日医の取組みについて説明があったとのこと。また、専門医制度についての協議も行われ、今年度の専攻医の採用状況についての資料が配付されています。それによると当然のことながら、専攻医の数は東京都が 1,802 名と最も

多く、反対に最も少ないのは島根県、宮崎県、山梨県の 37 名、次いで福井県の 39 名、和歌山県の 45 名、そして山口県の 46 名となっています。山口県では県内で初期研修を終えた 68 名中 28 名が県外に転出し、5 名が県外から転入しています。いよいよ若手医師の不足に拍車がかかりそうで不安でなりません。

5 月 19 日（土）、**都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会」連絡協議会**が開催され、香田和宏 理事が出席しています。昨年度まで部会名には「仮称」がついていましたが、今回はこの「仮称」がとれたということは、全国の都道府県医師会に同部会を立ち上げるよう、今後、日本医師会が本腰を入れて要請を行うことを意味しているものと思われます。協議会では死因究明等協議会の設置状況、身元調査法の運用について説明が行われ、その後、4 県から提出された質問・要望について協議が行われています。そのうち長崎県医師会から提出された「在宅死の検案について」は、「在宅死で主治医が到着する前に警察が来ていた場合は異状死体の取扱いになるのか否か。何らかのルール作りが必要ではないか」との質問で、これに対しては「主治医が問題なしと判断すればそれでよいのではないか」との回答があったとのこと。高齢者の孤独死が増えている状況で、このようなケースが増えてくるものと思われ、慎重な対応が必要になると思います。

5 月 20 日（日）には**日医かかりつけ医機能研修制度平成 30 年度応用研修会**が開催され、県医師会でも TV 会議システムで開催しました。受講者は 72 名でした。

5月24日(木)に県庁で開催された山口県いじめ問題対策協議会ネットワーク会議に藤本俊文常任理事が出席しています。平成28年度の全国のいじめの認知件数は32万3千件と過去最多であったとのこと。県教育委員会では、やまぐち総合教育支援センターで教育相談事業を行っていますが、「ふれあい総合テレホン」や「24時間子どもSOSダイヤル」に寄せられた相談が平成27年116件、28年270件、29年377件と年々増加しているそうです。

日本医師会第14回男女共同参画フォーラムが5月26日(土)に高知県医師会の引き受けて開催され、濱本史明 副会長、今村孝子 常任理事、中村 洋 理事、前川恭子 理事が参加しました。メインテーマは「次世代がさらに輝ける医療環境をめざして～超高齢社会で若者に期待する～」で、京都大学大学院医学系研究科生物科学専攻動物学教室の高橋淑子 教授の基調講演「次世代につながる生命科学とは」の後、シンポジウム、総合討論が行われたとのこと。

5月27日(日)に開催された第31回大島医学会に河村会長が出席し、挨拶並びに公開講演会の座長を務めました。公開講演の講師は大島郡医師会の会長でもある嶋元 徹 先生で、「病気だけど病人じゃない!～がん体験から人生を考える～」と題して、ご自身の体験をもとに、お話があったとのこと。なお、嶋元先生によると今後、宇部市と下関市でも講演する予定になっているそうです。

5月31日(木)、**郡市医師会保険担当理事協議会並びに医師会推薦審査委員合同協議会**を開催し、郡市医師会からの意見・要望について協議を行いました。詳細については本号掲載の報告記事をご参照ください。

6月7日(木)、**郡市医師会看護学院(校)担当理事・教務主任合同協議会**を開催しました。今回も「オール山口」でということで、看護学院(校)を経営していない郡市医師会からも担当役員に出

席していただきました。ここ数年、受験者数が激減しており、准看護師科で定員を確保できているのは7校中わずか2校のみ、看護師課程については3校すべてが定員割れとなっています。生徒数の減少は授業料、補助金の減額につながり経営を圧迫する要因となり、多くの学院(校)が経営の厳しさを訴えています。景気がよくなり、求人倍率が高くなると、看護学院(校)への入学希望者が減少し、また、応募者の学力レベルが低下する傾向は以前からありました。しかしながら、少子化の進行と大学の看護師科新設が増えている現状を考えると、今後、景気が悪くなくても入学希望者が増えてくるのか疑問に思われ、統廃合等を含め根本的な解決策を検討する時期に来ているように思われます。

6月14日(木)には**第182回山口県医師会定例代議員会**が開催されました。報告事項である平成29年度山口県医師会事業報告のほかに、平成29年度山口県医師会決算を含む議決事項7件が上程され、すべて全員賛成で可決されました。また、当日は予告質問2題と、事業報告に対する要望1題がありました。予告質問は玖珂医師会の藤政篤志 代議員からの「平成30年度診療報酬改定における小規模病院における夜間救急外来対応規定について」と、柳井医師会の弘田直樹 代議員からの「労働環境考」です。どちらも現在の医療現場において重要な意味を持つ質問でした。事業報告に対する下関市医師会の赤司和彦 代議員からの要望は、「県医師会報の送付の可否を問うアンケートに『不要』と回答したが、保険診療に関する協議内容を記載した『ブルーページ』だけは従来通り、紙媒体で送付してほしい」というものでした。詳細については次号の会報をご覧ください。

定例代議員会終了後、**平成30年度山口県医師会表彰式**が行われました。今年度の「医学医術に対する研究による功労者表彰」は、長年にわたり防府市における看護職員養成に貢献した功績が評価され、防府医師会の内平信子 先生が受けられました。そのほか、長寿会員表彰として33名の

先生方、役員・代議員・予備代議員、郡市医師会長通算10年以上の表彰として8名の先生方の表彰が行われ、また、この日をもって退任する県医師会の役員5名に対しても感謝状が贈呈されました。

定例代議員会、表彰式の後に**新執行部による最初の理事会**が開催され、役員と会務分担が協議されました。新副会長として林弘人 前専務理事並びに今村孝子 前常任理事が、新専務理事として加藤智栄 前常任理事、新常任理事として中村洋、清水暢、前川恭子 各前理事が、新理事には伊藤真一 先生、吉水一郎 先生、郷良秀典 先生、河村一郎 先生、長谷川奈津江 先生（以上、順不同）が選出され、新たな会務分担が決定されました。今後のご活躍を祈念いたします。

「県医師会の動き」を私が担当するのは本号が最後となります。まだまだ紹介したい曲や演奏家がありますが、以前から取り上げたいと思っていた鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン（以下、「BCJ」）にトリを務めていただこうと思います。BCJは鈴木雅明が、世界の第一線で活躍する古楽器のスペシャリストを擁して、1990年に結成したオーケストラと合唱団です。1995年からスウェーデンBISレーベルと取り組んできたJ.S.バッハの「教会カンタータシリーズ」が2013年2月に全曲演奏・録音（全55巻）として完遂され、国内外で話題となるとともに、高い評価を受けています。一人の指揮者が一つの団体で協会カンタータ全曲の録音を行ったのは、ヘルムート・リリング指揮のシュトゥットガルト・バッハ・コレギウム、トン・コープマン指揮のアムステルダ

ム・バロック管弦楽団&合唱団、ジョン・エリオット・ガーディナー指揮のイングリッシュ・バロック・ソロイスト及びモンテヴェルディ合唱団に次いで4番目ということになります。古楽器演奏の発足はドイツ、オランダ、イギリスの三大地点からといわれていますが、これらの地で活躍している日本人古楽器演奏家も多数います。日本の古楽器演奏団体がバッハ作品の演奏で高い評価を得たことは素晴らしいことですが、決して奇跡でも偶然ではないのです。

17年前に東京オペラシティのコンサートホールでBCJのコンサートを聴きました。ちょうど教会カンタータ全集の録音が進行中であったこともあり、教会カンタータがメインで、世俗カンタータはコーヒー・カンタータが1曲だけ演奏されたように記憶しています。この曲だけは鈴木雅明がチェンバロを弾きながら指揮をしていました。そして6年前にも同じ会場でBCJのコンサートを聴くことができました。このときはバッハの大曲マタイ受難曲でした。東京オペラシティのコンサートホールは1997年9月10日にオープンしたコンサート専用ホールです。音響的に最もよいとされているシューボックスタイプで、高い天井には大胆な変形ピラミッド型を採用し、内装には振動体・共鳴体として優れている天然木を使用しています。正面2階席には、スイスの著名なオルガンビルダーであるクーン社のパイプオルガンが設置されています。6年前に私が聴いた時は、このパイプオルガンのすぐそばの座席で、真正面に指揮者の鈴木雅明、多くの聴衆とは向かい合う形となりました。素晴らしい演奏会でした。

# かなえたい 未来がある。

応援してください。  
やまぎんも、私も。

石川 佳純



 **山口銀行**  
Yamaguchi Financial Group **YAMAGUCHI BANK**